

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2172600492
法人名	株式会社介護社希望が丘
事業所名	グループホーム ひまわり
訪問調査日	平成 20 年 10 月 16 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 21 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日平成20年11月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2172600492		
法人名	株式会社介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	揖斐郡揖斐川町谷汲長瀬1795番地 9 (電話) 0585 - 56 - 0080		
評価機関名	旅人とたいようの会		
所在地	大垣市伝馬町110		
訪問調査日	平成20年10月16日	評価確定日	平成20年11月21日

【情報提供票より】20年9月1日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 7 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 6.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	平屋 一部 2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷 金	有() 円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	75,000	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	900 円	

(4) 利用者の概要(9月1日)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	6 名	要介護4	5 名
要介護5	6 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.4 歳	最低 69 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	谷汲中央診療所・山下歯科診療所・黒野病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然の陽光・風・山川・田畑に恵まれた環境である。離職率が低く、利用者と職員は馴染みの関係が深く笑顔でゆったりとした時間が流れている。職員は「一生懸命生きている」利用者の姿を感じ、一緒に過ごすことに喜びを感じ支えあう関係を築いている。また食事の自力摂取が重要と食器を工夫するなど、毎日が学習と捉えている。地域の職員が多く、自治会・社会福祉協議会・消防団等々と交流があり、地域広報誌「介護ってなんだろう？」を継続発行して地域福祉の中心となる活動・役割を担っている。これまでにターミナルケアの実績があり、早い段階から利用者・家族等と相談し、関係者の方針の統一、支援の内容が検討されている。利用者・家族にとって安心のホームになっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービス提供の文章化がなされていない。チームでつくる利用者本位の介護計画については、重点ケア計画書Pプラン実施状況・Aアセスメント考察の記入に改善が見られ、日々の働きかけやその様子、結果をふまえて考えを明らかにするなど地道な活動が伺える。また介護記録にバイタルや食事・水分摂取量を記載する工夫で、全職員が簡易に情報共有でき気づきが多くなり連携がスムーズになるなど実際のケアに成果が現れ、評価を活かした改善が見られる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価も、昨年同様全職員の意見集約で作成されている。実際の場面に応じた勉強会やミーティングで職員は毎日が学習と捉えており、本年複数の職員が介護福祉士に挑戦するなど、サービスの質向上の意識は高い。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	メンバーの参加により定期的に開催し、アドバイスをもらったり重度化の現状理解の活動をしている。話し合いの中から避難訓練への住民参加や、消防設備を検討するなど会議を活かした取り組みがされている。現在利用者代表や家族の参加は見られない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族等から意見、不満、苦情がしやすい雰囲気づくりをしており、「心配りしてほしい。」「…して下さい。」など家族の率直な発言があり、ミーティングで検討・解決に取り組んでいる。健康状態の変化時等は速やかに状況説明や対応を相談するなど、携帯電話で相互が常時話し合えるよう対応している。また外部の第三者委員を重要事項説明書等に明示し相談窓口の案内説明もされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の集会に参加している。また社会福祉協議会主催の地域行事音楽療法の集いにも出席しており、利用者は地域との交流を楽しみにしている。消防署の協力を得て避難訓練・初期消火訓練などを定期的に行っている。地域から災害時の避難に心配の声があがり、地域住民の訓練参加が実現している。また地域総合防災訓練にも参加し、消防団との絆も深い。地域広報誌「介護ってなんだろう？」を継続発行し、地域福祉の中心となる活動・役割を担っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「慣れ親しんだ生活、もてる力の発揮、自信と感情が生まれる暮らし」を理念に、「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を基本として支えている。運営規程、契約書、重要事項説明書等の見直しがなされていない。		地域密着型サービスとしての役割を再度全職員で検討し、利用者、家族に対する契約書・重要事項説明書に、地域との関係性を重視した地域密着型サービス提供の文章化を望みたい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を具体化した「口をだすな」「手をだすな」「見逃すな」を常に意識し、その人に寄り添ったケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の集会や地区の避難訓練に参加している。また地域行事音楽療法の集いにも出席し、利用者は地域との交流を楽しみにしている。地域広報誌「介護ってなんだろう？」を継続発行し、地域福祉の中心となる活動・役割を担っている。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員の意見集約で作成されている。前回の改善課題であった記録については、重点ケア計画に工夫がなされている。また介護記録にも改善が進展し実際のケアに成果が出るなど、評価を活かした改善が見られる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーの参加により開催されている。話し合いの中から避難訓練への区長参加や、安全を危惧する意見から消防設備を検討するなど会議を活かした取り組みがされている。現在利用者代表や家族の参加は見られない。		利用者・家族の代表や時には議題における関係者の出席を依頼するなど、幅広い立場の人が積極的に参加してもらえるよう働きかけていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	揖斐広域連合が中心となり、地域包括支援センター・ケアマネジャー・揖斐厚生病院・グループホーム協議会とネットを組んで関係を築いている。入退院時の医療情報、サービス利用空き情報など共有している。また生活保護の利用など福祉事務所とも行き来して、サービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時に暮らしぶりや健康状態を報告している。またひまわり通信谷汲版を毎月発行し行事等の様子を知らせ、その他来訪の少ない家族には個別に手紙や写真で知らせている。健康状態の変化時等は速やかに状況説明や対応を相談するなど、携帯電話で相互が常時話し合いができるよう対応している。なお金銭管理は行っていない。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等から意見、不満、苦情がしやすい雰囲気づくりをしており、「心配りしてほしい。」「…して下さい。」など家族の率直な発言があつて、ミーティングで検討・解決に取り組んでいる。また外部の第三者委員を重要事項説明書等に明示し相談窓口の案内説明もしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化している。また職員の離職がなく、利用者にも職員同士にも馴染みの関係で継続的に支える体制となっている。職員は両ユニットの情報を共有し支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	プライベートや介護技術など実際の場面に応じたミーティングや勉強会を行い、職員は毎日が学習と捉えている。また外部研修の情報を提示して参加の機会づくりをしている。本年は5人が介護福祉士に挑戦し力量を高める努力をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に所属している。揖斐郡内のグループホームと情報交換や相互見学を行っている。また講演会、勉強会の活動に参加し質向上に取り組んでいる。その他同法人内の2つの施設(神戸・本巣)とは交流が多い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	ホームの雰囲気を感じられるよう見学機会を複数設けている。また在宅、親戚宅、病院等で全対象者と必ず面会して精神的不安が無くなるよう支援している。急なサービス開始時は、本人の生活歴などの情報を把握し対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は話したり歌ったり喜怒哀楽を共にし、利用者を家族のように捉えている。また「一生懸命生きている」利用者の姿を感じ、一緒に過ごすことを喜び共に支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入浴時や夜間の対一時、また家族が帰った後などに希望や意向発言の機会と意識し、職員で共有蓄積する仕組みがある。その他会話での表明が難しい利用者には、家族・親戚・友人から情報を得たり、表情行動等から思いを推察しミーティングで検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	利用者・家族の希望(時には利用者の言葉そのまま)を挙げたり、かかりつけ医の意見を取り入れ、また前サービスの情報を参考にして、職員全員でアセスメント・モニタリングを行って介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画に基づいた重点ケア計画書を毎月作成し、アセスメント・気づき・結果・考察・モニタリングを行って現場スタッフが記入完成し、そのたび毎に見直しを行っている。また大きな変化があった場合は、利用者・家族や医療機関の意見を参考にした新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診介助代行をし、その時の状況説明をしている。看護師の管理で行う胃ろう経管栄養など、要望に応じた柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関で最寄の中央診療所(2回/月)や黒野病院精神科(1回/月)そして訪問歯科(2回/月)の往診(口腔ケア含む)が定期的であり、各機関が連携し、24時間対応体制がある。利用者、家族の従来からのかかりつけ医の受診にも応じて支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでにターミナルケアの実績がある。早い段階から家族等と相談し、かかりつけ医や職員等関係者の方針の統一、支援の内容が検討されている。また重度化した場合、利用者・家族とその時々十分な話し合いをし納得が得られるよう支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入所時に呼称を検討するなど、利用者の尊厳やプライバシーを損ねないよう意識向上に留意しているが、トイレ介助時やおむつ交換時にドアや言葉かけに不適切な対応がある時も見られる。		一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底していくことは、利用者の尊厳と権利を守るための基本であり必須事項である。プライバシー確保について、全職員が常に具体的に話し合う取り組みの継続を望む。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが一人ひとりの要望や言葉かけ世間話から、外気浴や入浴の順番など体調に配慮して柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の好みや日常の会話から職員が話し合っ て決めている。料理の下準備や盛り付け配膳を利用者の能力に合わせて一緒に行っている。自力摂取、食事形態(おかゆ・刻み食・ミキサー食)、姿勢に留意し会話をしながら楽しい食事になるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回午前中の中の入浴が基本であるが、午後の中の入浴にも対応している。重度化の利用者には職員が2～3人で対応し利用者・職員にとって安心・安全の入浴を週2回と清拭1回を行って清潔を保っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、掃除、洗濯たたみなど生活の一部としての家事仕事、読経時のおりん、経本の準備、導師など得意分野で能力が発揮できるよう支援している。また利用者と相談して散歩やドライブ宝くじを買いにいくなど気分転換を図っている。そのほか、他利用者の様子を職員に知らせたり、「まぶしい」など職員が気付かない思いを伝える事を担う等、役割を作り出す支援もしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物・ドライブ・散歩などを行っている。自然の風や四季の移ろいを庭のデッキで感じられ、利用者の状態に合わせてクライニング車椅子で外気浴ができる支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外気を屋内で感じいつでも庭に出ることができるよう居室や玄関のドアは開け放たれている。交通量の多い幹線道路との境界門扉は電子ロックされているが、利用者の外出の気配を見落とさないケアをしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練・初期消火訓練などを定期的(2回/年)に実施している。地域から災害時の避難に心配の声があがり、地域住民の訓練参加が実現している。また地域総合防災訓練にも参加し、消防団との絆も深い。家具の転倒防止や水・食料の備蓄などの対応もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食器を工夫するなど自力摂取の重要性を認識した支援がされている。、おかゆ、刻み食、ミキサー食で個別対応し、食事や水分の摂取状況をバイタルと共に介護記録に記入するなど情報共有に改善が見られる。栄養バランスは看護師や医師の指導の仕組みもある。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間、食堂、浴室、トイレなど清潔で不快な臭気や音(テレビ)も全く気にならない。食堂には仏画の掛け軸とおりん、大きいソファー、壁は写真や絵の作品など季節や生活を感じることができる。玄関のベンチや庭のデッキなど、庭の草花、自然の景色や風をリクライニング車椅子利用者も感じることができる環境が整っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口の好みの暖簾や自室確認の表札代わりのお気に入り写真、好みの椅子、家族写真、手芸作品、ぬいぐるみ、仏像を安置するなど、また床に布団を敷いて休む等々利用者一人ひとりが居心地よく生活できる居室空間となっている。		